

## ■■ 28355!を1人で遊ぶ

1人用ルールは4人用ルールとは異なり、評価☆を集めるのではなく「発揮値を上げることのみを追求する」モードです。4人用ルールに加えて「捨て札置き場」が登場します。基本ルールは同じなので、先に説明書で4人用ルールを把握しておいてください。

### ●スタートステップ

山札を作る。その際、《[Sk]283プロ》《[Sk]七草はづき》の2枚は除外する。

### ●プロデュースステップ

①審査員カードの公開 …山札を1枚めくり、審査員カードとする。

②手札の配布 …山札を5枚引き、手札とする。

#### ③マリガン(手札交換)

その手札で良ければそのまま何もせず④へ進む。

手札に満足しなければ全ての手札を捨て札置き場に置き、②に戻る。

ただし、引く枚数は前回引いた枚数-1枚だけとする。手札1枚の時に捨て札にしたのなら④へ進む。

例) 1回目の手札5枚を捨てたら、次は4枚引いて手札にする。

#### ④編成(手札の配置)

手札を全て手元に自由な順番で置き、編成する。

置き方のルールは4人用の時と同じとするが、以下の点で異なる。

・チェンジは行わない(pアイドルは重複してもよいが、審査には重複して参加させられない)

プロデュースステップは5回繰り返す。

(つまり、一度も手札交換しなければ $5 \times 5 = 25$ 枚で編成枠がちょうど埋まる)

### ●オーディションステップ

①審査員カードの公開 …山札を1枚めくり、審査員カードとする。

②参加ジャンル指定 …pアイドルにエントリーチップを載せる。

#### ③審査

3人のpアイドルの発揮値を計算し、スコアボードに加算していく。

※《[Sk]田中摩美々》の「審査ジャンル内1位」は「発揮値が最も高いpアイドル」と読み替える。

発揮値合計が25点に満たない場合、『流行補正』を使って良い。審査員カードのジャンル別枚数を流行補正とし、必要なジャンル分加算する。流行補正を受けたことを示すため、対象ジャンルのエントリーチップを裏返す。

例) 流行1位の審査員カードは3枚だった。この流行補正を受けるなら、該当ジャンルに参加したpアイドルのエントリーチップを裏返して発揮値+3する。

結果により以下の評価となる。

Sランクエンド : 流行補正を受け取らず30点を達成した。

Aランクエンド : 流行補正を受け取らず25点を達成した。

Bランクエンド : 流行補正を1つ受け取り25点を達成した。

Cランクエンド : 流行補正を2つ受け取り25点を達成した。

Dランクエンド : 流行補正を3つ受け取り25点を達成した。

Eランクエンド : 流行補正を3つ受け取っても25点を達成できなかった。

## ■■ 28355！を2人で遊ぶ

4人用と同じルールのままでも2人で遊んでも良いのですが、以下の手順にすることでひとと味違う戦略性を味わえます。

4人用ルールに加えて「各プレイヤーの捨て札置き場」が登場します。

基本ルールは同じなので、先に説明書で4人用ルールを把握しておいてください。

### ●スタートステップ

4人用の時と同じ。

### ●プロデュースステップ

①**審査員カードの公開** …山札を1枚めくり、審査員カードとする。この時[Sk]が公開されたらスタートステップからやり直す。

(やり直しはプロデュースステップ1回のみ)

②**手札の配布** …山札を5枚引き、手札とする。

#### ③ドラフト

4人用の時と異なり、以下を順番に行う。

1)手札を1枚手元に置き、残り(4枚)を相手に渡す。

2)手札を1枚手元に置き、さらに1枚捨て札にして、残り(2枚)を相手に渡す。

3)手札を1枚手元に置き、さらに1枚捨て札にする。

2回目と3回目で1枚捨て札にする以外は4人用の時と同じ。

手元に置く時に表向き(pアイドルにする)にするかどうか選ぶのも同様。

④**チェンジ** …4人用の時と同じ。

プロデュースステップは5回繰り返す。

まとめると、プロデュースステップを行う毎に

・手元には3枚のカードが置かれる。(合計15枚)

・捨て札置き場には2枚のカードが置かれる。(合計10枚)

・場の中央(審査員カード置き場)には1枚のカードが置かれる。(合計5枚)

となり、プロデュースステップが全て終わった時には捨て札置き場以外の場は4人用の時と同じ状況になる。

### ●オーディションステップ

#### ●ゲーム終了

4人用の時と同じ。

**補足1**：捨て札を捨てた順番が分かる様に置くことで、ゲーム終了後に「どのタイミングで相手に渡したくないカードを止めたか」を見直すことができます。

**補足2**：ゲームに使用するカードが手札5枚×5周×2人=50枚、審査員カード6枚で合わせて56枚。つまり10枚のカードが山札として残ります。